

教育研究創発国際研修における学術活動報告書

令和 5 年 2 月 28 日

氏名 胡 云潼

所属 大学経営・政策コース コース

学籍番号 23-207013

指導教員名 両角 亜希子

1. 研究課題 中国における卓越研究拠点の形成事業について

2. 報告する学術活動の実施期間 令和 5 年 2 月 21 日 ~ 令和 5 年 2 月 22 日

3. 日本学術振興会特別研究員 (DC) の現在の採用状況 DC1 DC2 採用無し

4. 学術活動

- 国外 国内
- ①英語論文公表
- ②研究科教員の研究プロジェクト参加
- ③フィールドワーク
- ④国際会議 (研究発表 運営補助 出席のみ)
- ⑤研究会 (研究発表 運営補助 出席のみ)
- ⑥研究指導委託
- ⑦留学
- ⑧国際研修
- ⑨国際インターンシップ
- ⑩その他 ()

5. 学術活動実施の概要

※上記4で選択した学術活動について具体的に記載してください。括弧内の概要を必ず記載してください。

- ① 英語論文公表
(著者、発表論文名、掲載誌名等、発表年月巻号、発表年月日等、論文内容の概要)
- ② 研究科教員の研究プロジェクト参加
(プロジェクト名、代表研究者名、自身の具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、プロジェクトの概要)
- ③ フィールドワーク
(調査先機関等、国名・都市名、具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、調査先の概要)
- ④ 国際会議
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、学会・会議名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑤ 研究会
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、研究会名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑥ 研究指導委託
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究、研究テーマと受入教員、受入期間(年月日)、具体的な研究活動、研究発表内容等の概要)
- ⑦ 留学
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究科、受入期間(年月日)、具体的な履修状況、研究発表内容等の概要)
- ⑧ 国際研修
(プログラム名、派遣先機関、国・都市名、派遣期間(年月日)、プログラム概要、研究発表内容等の概要)
- ⑨ 国際インターンシップ
(プログラム名、派遣先機関、配属部署、国・都市名、派遣期間(年月日)、具体的な活動、プログラム内容等の概要)
- ⑩ その他(具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度等の概要)

学術活動区分 (①～⑩を記入)	④
<p>2023年2月21日～22日の二日間に、東京大学教育学部教育学研究科・ストックホルム大学教育学部が共催する2022年度「グローバル・リーダー育成：欧州研修プログラム」国際学術交流会で研究発表と交流会に参加した。</p> <p>発表のタイトルは「The Globalization of The Top Universities in China」で、中国のトップ大学にとってグローバル化は何の意味を持っているかを考察した内容である。分析対象は北京大学、清華大学、上海交通大学及び浙江大学の四大学で、各大学が公表した「双一流」計画の中で、グローバル化に関するキーワードを整理し、四大学が求めるグローバル化の内容を比較し、まとめる。そのうえで、中国の大学グローバル化モデルを理解し、米国やイギリスなどの大学との異同点を考え、世界一流大学づくりのためのグローバル化について示唆を与える。</p> <p>今回の交流会では自分の研究のみならず、他人の研究についても議論ができて、研究に新たなアイデアをもたらした。とくに、研究者のネットワークを拡大できて、有意義な時間を過ごした。</p>	

- (注) ① 年月日は西暦で記入してください。
 ② 英語論文発表については報告する学術活動において発表又は受理されたもの。
 ③ 上記に記載しきれない場合は、ページを追加しても差し支えありません。
 ④ 複数回の学術研究活動による報告の場合、適宜本ページを追加し、2つ目以降についても必要な内容を網羅してください。

6. 学術活動による成果

※報告する学術活動について、教育分野における国際的リーダー人材の育成とその研究成果を海外に発信することを目的とした教育研究創発国際研修の趣旨に照らし、その成果を具体的に記載してください。学術活動により得られた自身の研究課題につながる成果についてもわかるように記載してください。

※本欄に書ききれない場合、ページを追加しても差し支えありません。

自分の博士研究は中国における卓越研究拠点の形成を巡って展開するつもりである。卓越研究拠点、つまり「有力研究者が集まる国際級の研究開発センター(COE)」の形成事業は世界中の国々において国家政策の一環として展開されている。そこで、世界一流大学はまさにCOEである。中国は世界一流大学を作って、高等教育の国際市場で独自のブランドを打ち出す目標を立てている。特に、2017年「双一流」計画を実行し、2050年までに高等教育の強国として、世界一流大学と一流学科を持つようになる目標を明言した。

世界一流大学を作りには、グローバル化が不可欠である。主流のアカデミック中心地はまだ欧米にある現実のなかで、中国は海外から優秀な人材を受入、大学の研究力を向上させている。また、教育及び研究の成果を海外へ発信することもブランドづくりに大事である。それでは、中国のトップ大学にとって、グローバル化は具体的に何を意味しているのか？先行研究によると、グローバル化は多様な目的に応じて、焦点がそれぞれ異なる。中国のトップ大学がグローバル化を論じるとき、どのような内容に焦点を当てているか、それが米国やイギリスの大学におけるグローバル化と何か違うのかを考察するのは本研究の目的である。

本研究は北京大学、清華大学、上海交通大学及び浙江大学という世界大学ランキングで上位の4大学を対象とする。この四大学は中国大学の最高水準及びグローバル化の最高レベルを代表している。筆者は四大学が2017年に公表した「双一流」計画の中からグローバル化に関するキーワードを抽出し、分類しながら整理した。

考察の結果、中国のトップ大学は学術の国際競争力を向上させるとの目的でグローバル化をしている。その目標を達成するため、もちろん海外から人材を招致したり、海外の学術誌に論文を発表したりするが、同時に、自ら国際会議を開催し、影響力のある学術誌を出版することにも力を入れている。中国のトップ大学は、今までの学術システムに参加するのみならず、新しい学術システムの創出にも積極的に参加したい。同時に、大学のグローバル化は中国文化の海外進出の一環とも認識される。大学は留学生を受け入れたり、研究成果を海外へ発信したりすることを通じて、より多くの人々が中国を理解するように努力している。

質疑の中で、中国のトップ大学においてどれぐらいの授業が英語で実施されるかとの質問があり、大学が英語に対する態度を聞いた。ちょうど他の発表を聞いて、韓国のトップ大学はかなり英語を重視し、英語で実施される授業も多くて、グローバル化が進んで一方、教育機会平等の問題も生じていることが分かった。そうした視点は調査を実施する時点で考えなかったもので、とても勉強になった。確かにSTEM領域で、英語の教科書を利用する事例はあるが、講義は英語で実施されるかどうかは教員によってことなり、その割合は大きくないと考える。大学側も英語で授業を実施する要求はない。前文で紹介したように、中国が創出したいのは、中国の特徴が強調される世界一流大学で、中国の文化を重視している。留学生に対しても、中国文化への理解を重視し、中国語教育の機会を提供している。

今回の交流会を通じて、自分の研究に新たな認識ができて、大学内外の研究者ネットワークも拡大したので、将来の研究推進に大きな意義がある。